

大阪公立大学 工学研究科 電気電子系専攻 M1(Gr. 3)の今井和哉

2024 年 12 月 3 日から 6 日まで、ベトナムのハロンで開催された国際会議 NOLTA2024 に参加しました。本会議では、「Effect of coupling position on amplitude death in coupled Rijke tubes」という題目で研究成果を発表しました。



この発表を通じて、研究内容に対する貴重なフィードバックを得ることができました。学会前日に日本を出発し、現地のホテルに到着したのは深夜でした。そのため移動は少し大変でしたが、ホテルは会議の開催場所でもあったため、滞在中の移動は非常に楽でした。日本との時差は 2 時間で、時差ぼけの影響はほとんどありませんでした。会議はホテル内の会議室で行われ、部屋の広さは一般的な会議室程度でした。会議期間中には、朝食と昼食が提供されました。特に朝食はホテルの屋上で美しい景色を楽しみながら取ることができました。食事はベトナム料理が中心で、多様な料理や新鮮なフルーツを味わうことができたのも良い思い出です。中でもフォーやバインミーといった代表的なベトナム料理は特に美味しく、食文化に触れる貴重な機会となりました。会議終了後、空き時間を利用してハロン湾を観光しました。クルーズ船に乗り、湾内に点在する美しい石灰岩の島々や奇岩を間近で見ることができ、その壮大な景色に感動しました。



滞在中、ベトナム全体の印象として感じたのは、人々の温かさと親しみやすさです。現地のスタッフや店員の方々は非常に親切で、英語が完全に通じない場合でもジェスチャーや笑顔で対応してくれました。また、街全体が活気にあふれており、特に市場や通りの屋台では多くの人々が行き交い、独特のエネルギーを感じました。交通量の多さとバイクの多彩な運転スタイルには驚かされましたが、それもベトナムらしい風景として記憶に残っています。

初めての国際会議で英語での発表となりましたが、練習の成果もあり、途中で止まることなくスムーズに発表を行うことができました。また、事前に準備した対策が功を奏し、英語での質問にも適切に対応することができました。さらに、自分自身も他の発表者に対して英語で質問することができ、非常に充実した経験を得ることができました。

今回の国際会議参加を通じて、学術的なスキルだけでなく、英語でのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力も向上しました。この経験を今後の研究活動や国際的な交流に活かしていきたいと思います。